

1. 略歴

| | |
|---------|--|
| 1981年3月 | 東京大学文学部第三類フランス語フランス文学専修課程卒業 |
| 1981年4月 | 東京大学大学院人文科学研究科修士課程入学（仏語仏文学） |
| 1985年4月 | 東京大学大学院人文科学研究科専攻博士課程進学 |
| 1985年9月 | パリ第3大学博士課程（～1989年3月）（フランス文学、フランス政府給費留学生） |
| 1989年4月 | 東京大学文学部助手 |
| 1990年4月 | 一橋大学法学部専任講師 |
| 1993年4月 | 一橋大学法学部助教授 |
| 1997年5月 | 一橋大学大学院言語社会研究科助教授 |
| 2000年4月 | 東京大学大学院総合科学研究科助教授 |
| 2007年4月 | 東京大学大学院人文社会系研究科助教授 |
| 2012年4月 | 東京大学大学院人文社会系研究科教授、現在に至る |

2. 主な研究活動

a 専門分野

ジェラルム・ド・ネルヴァルの作品を中心とするフランス・ロマン主義文学。フランス現代小説、映画論。

b 研究課題

- (1) フランス・ロマン主義文学における「作者」像の成立と変容。
- (2) フランス19世紀文学史の再検討。
- (3) フランス現代小説における「作者」像の解体と再生。
- (4) フランス映画における「作家主義」の再検討。

c 概要と自己評価

- (1) については、科学研究費を得て、18世紀文学やロマン派音楽の研究者も含む横断的、複眼的な探求を試みた。その成果の一端を刊行することができた。
- (2) については、(1)の研究と連動しつつ、とりわけジェラルム・ド・ネルヴァルをその結節点とするようなロマン主義的ポエジーと小説的リアリズムの相互関係の考察を深めつつある。
- (3) もまた、(1)および(2)と緊密に関連する主題であり、総合的な論考に発展させていきたいと考えている。さしあたり、作者の「死」と「再生」の寓話として興味深いミシェル・ウエルベックやジャン＝フィリップ・トゥーサン作品の翻訳紹介を行うことができた。対比的に、日本現代文学における語りと作者の関係性の変容にも関心を払っている。
- (4) に関しては、アジアとフランス映画の関わりを考察し、共同論集および単著を刊行することができた。引き続き、ヨーロッパ映画と移民の問題をめぐる共同論集を企画中である。

d 主要業績

(1) 著書

共編著、秋山聰・野崎欽編、『シリーズ人文知 2 死者との対話』、東京大学出版会、227頁（野崎欽「シリーズ刊行にあたって」、i-iii頁 野崎欽『『死者との対話』とは何か——ロラン・バルトからシャトーブリアンへ』、1-19頁）、2014.11
単著、野崎欽、『谷崎潤一郎と異国の言語』、中央公論社、中公文庫、2015.4
単著、野崎欽、『アンドレ・バザン 映画を信じた男』、春風社、220頁+7頁、2015.6
共編著、野崎欽、渋谷哲也、夏目深雪、金子遊、『国境を超える現代ヨーロッパ映画 250 移民・辺境・マイノリティ』、河出書房新社、328頁、2015.10
編訳書、『バルザック』野崎欽編、編集協力博多かおる、集英社ポケットマスターピース第3巻、787頁（「幻滅抄」411-477頁、「解説」719-732頁）、2015.12

(2) 論文

野崎欽、「作者と訳者の境界で ロラン・バルトから森鷗外へ」、日本近代文学学会関西支部編『作家／作者とは何か テキスト・教室・サブカルチャー』和泉書院、113-128頁、2015.11
野崎欽、「大いなる遺産 プルーストと現代フランス小説」、明治学院大学言語文化研究所『言語文化』、第32号、181-198頁、2015.3

野崎敏、「悲劇の啓示 フォークナーと第二次大戦後のフランス」、『フォークナー』、第 17 号、松柏社、4-12 頁、2015.4

野崎敏、「魚を尊ぶひとの芸術 井伏鱒二小論」「すばる」第 38 巻第 2 号、214-227 頁、2016.2

野崎敏、「映画によるジャンヌ・ダルク クローデルからロッセリーニへ」、『日仏文化』、第 85 号、90-99 頁、2016.3

(3) 書評

保莉瑞穂『恋文 パリの名花レスピナス嬢悲話』書評、『日本経済新聞』朝刊、2014.8.31

「イレヌ・ネミロフスキーの邦訳小説四冊を読む」、『図書新聞』、3174 号、1-2 面、2014.9.13

「ディストピアを悦ばしく生きる 多和田葉子『燧灯使』」、『群像』、第 69 巻第 12 号、306-307 頁、2014.12

「だれも目にしたことのない京都——黒川創『京都』」、『新潮』、第 112 巻第 1 号、336-337 頁、2015.1

「矢作俊彦『フィルムワール／黒色影片』」、『日本経済新聞』朝刊、2014.1.11

中条省平『恋愛書簡術』解説、中公文庫、265-271 頁、2014.2

菅野昭正『小説家大岡昇平』書評、『北海道新聞』朝刊、2015.3.15

ポール・ベニシュ『作家の聖別』書評、『週刊読書人』、第 3089 号、2015.5.15

「歓待の精神 内田洋子『イタリアのしっぽ』」、『すばる』、第 37 巻第 7 号、415 頁、2015.7

「名作のみずみずしい新訳 フローベール『感情教育』」、『ふらんす』、第 90 巻第 5 号、72 頁、2015.7

芳川泰久『謎解き「失われた時を求めて」』書評、『週刊読書人』、第 3102 号、2015.8.14

パトリック・モディアノ『あなたがこの辺りで迷わないように』書評、『北海道新聞』朝刊、2015.8.30

「ミシェル・ウエルベック『服従』』書評、『日本経済新聞』朝刊、2015.10.25

アンドレ・バザン『オーソン・ウェルズ』書評、『週刊読書人』、第 3127 号、2016.2.12

佐々木敦『ゴダール原論』書評、『日本経済新聞』朝刊、2016.2.28

(4) 学会発表

国際、Jean-Philippe Toussaint, Marianne Kaz, John Lambert, Kan Nozaki, 「Table ronde : Un auteur et ses traducteurs」(フランス文芸家協会主催)、Paris, l'Hotel de Massa、2014.6.3

国際、Kan Nozaki, 「Au-dela de l'orientalisme : Nerval a la lumiere de Said」、『Nerval : histoire et politique』(パリ大学主催)、Paris, Archives Nationales、2014.6.6

国内、野崎敏、「歌声と回想——ルソー、シャトーブリアン、ネルヴァル」、シンポジウム「声と文学」、東京大学文学部仏文研究室主催、文学部第 1 号館 315、2014.9.27

国内、中村文則×野崎敏「創作と翻訳の罪と悦楽」、主催：静岡大学翻訳文化研究会(日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C)「翻訳の倫理をめぐる総合的研究」(課題番号 24617006)による研究成果公開イベント)、静岡県男女共同参画センターあざれあ、2014.12.14

(5) 啓蒙

野崎敏、「映画の源泉としてのこども」、土田環編『こども映画教室のすすめ』、春秋社、207-228 頁、2014.5

Kan Nozaki, 「The New Questions Concerning the Golden Age of Japanese Cinema」、『Japanese Book News』(国際交流基金文化事業部)、第 80 号、2-3 頁、2014 夏

野崎敏、「文学部と人文知の挑戦」、『UP』、第 43 巻第 10 号、通巻 504 号、1-4 頁、2014.10

野崎敏、「ノーベル文学賞 パトリック・モディアノ氏に寄せて」、読売新聞朝刊、2014.10.13

野崎敏、「パトリック・モディアノ 星から届く光」、『ふらんす』、第 90 巻第 1 号 1 月号、12-14 頁、2015.1

野崎敏、「ウエルベックの涙」、『ふらんす 特別編集 シャルリ・エブド事件を考える』、20-22 頁、2015.3

野崎敏、「愛に目覚めよ! 感じるフランス文学。」、『Figaro Japon』、第 466 号、214-219 頁、2015.4

Kan Nozaki, 「Japan's Love」、『Worth Sharing : A Selection of Japanese Books Recommended for Translation』(国際交流基金文化事業部)、第 13 号、2-3 頁、2015.3

野崎敏、「野崎敏インタビュー 異邦を求める文学」、『文藝別冊 谷崎潤一郎』、河出書房新社、39-47 頁、2015.2

野崎敏、「群像新人文学賞 選評」、『群像』、第 70 巻第 6 号、96-97 頁、2015.6

野崎敏、「大江文学は愛に満ちている」、『日本文学全集 22 大江健三郎』月報、河出書房新社、2015.6

野崎敏、「ルノワールと素晴らしい助監督たち」、『ピクニック』デジタルリマスター版プログラム、クレストインターナショナル、11-12 頁、2015.6

野崎敏、「日仏翻訳文学賞 20 年のあゆみ」、『ふらんす』、第 90 巻第 7 号、12-13 頁、2015.7

野崎敏、「この人を見よ バフマン・ゴバディ監督『サイの季節』」、『すばる』、第 37 巻第 8 号、370-371 頁、2015.8

鼎談・野崎敏、四方田彦彦、中条省平「映画論を超えた「事件」——バザンの潜在的可能性を顕在化させる試み 野崎敏『アンドレ・バザン』(春風社)をめぐる」、『図書新聞』、第 3218 号、2015.8.8

- 野崎敏、「出口裕弘に導かれて」、『新潮』、第112巻第10号、224-225頁、2015.10
- 野崎敏、「悲しみのヌーヴェル・ヴァーグ ジーン・セバーグ」、『キネマ旬報』、1702号、通巻2516号、46-47頁、2015.11
- 野崎敏、「離陸の楽しみ パスカル・フェラン監督『バードピープル』」、『すばる』、第37号第11号、338-339頁、2015.11
- 野崎敏、「わがネルヴァルのシリア」、『ふらんす特別編集 パリ同時テロ事件を考える』、13-15頁、2015.12
- 野崎敏、「2015 私の3冊」、『東京新聞』夕刊、2015.12.27
- 野崎敏、「フランスにイスラム政権が!? 問題作『服従』の挑発」、『文藝春秋 SPECIAL』、第10巻第1号、178-183頁、2016.1
- 野崎敏、「ジャンプするエリック・サティ」、『ユリイカ』、第47巻第18号、86-88頁、2016.1
- 野崎敏、「世界文学への扉 バルザック」、『青春と読書』、第51巻第1号、通巻474号、62-65頁、2016.1
- 野崎敏、「音楽について」、『星座』、かまくら春秋社、第26号、22-23頁、2016.1
- 野崎敏、「シャルリー・エブド事件から一年」、『読売新聞』夕刊、2016.1.13
- 野崎敏、「ブリュッセルを爆破するべきか? ジャン＝フィリップ・トゥーサンからのメッセージ」、『早稲田文学』、第10次、第14号、通巻第1018号、192-195頁、2016春
- 辻原登・野崎敏対談「二十一世紀の翻訳文学の新たな誕生」、『青春と読書』、第476号、58-63頁、2016.3
- 野崎敏、「オーケストラは世界をつなぐ エディ・ホニグマン監督『ロイヤル・コンサートへボウ・オーケストラがやってくる』」、『すばる』、第38巻第2号、372-373頁、2016.2

(6) 翻訳

- 個人訳、Michel Houellebecq、Lanzarote、ミシェル・ウエルベック著、野崎敏訳、『ランサローテ島』、河出書房新社、78頁、2014.5
- 共訳、Andre Bazin、Qu'est-ce que le cinema?、アンドレ・バザン著、野崎敏、大原宣久、谷本道昭訳、『映画とは何か(上・下)』、岩波文庫、上巻369頁、下巻284頁+21頁、2015.2、2015.3
- 個人訳、Michel Houellebecq、La Carte et le territoire、ミシェル・ウエルベック著、野崎敏訳、『地図と領土』、ちくま文庫、462頁、2015.10

3. 主な社会活動

(1) 学会

日本フランス語フランス文学会員

(2) 学外組織(学協会、省庁を除く) 委員・役員

小西国際交流財団、日仏翻訳文学賞選考委員長
講談社、群像新人文学賞選考委員